

I 正社員調査の概要

1 調査の目的と問題意識

人生 100 年時代を迎え、企業においても定年延長や雇用上限年齢の引き上げへの機運が高まっている。高齢社員の活躍が一層求められる中で、「現役」の中高年社員は定年や高齢期の働き方についてどのように考え、自身の職業生活をどう展望しているのだろうか。

本調査は、中高年社員の意識や認識を探り、高齢期における活躍に向けて有効な人事管理施策について考える手がかりを得ることを目的に実施した。特に、これまであまりデータの蓄積がなかった女性社員の高齢期に向けた意識と職業生活設計に焦点を当て、女性の就業継続と戦力化の方策について検討することを中心課題とした。

2 調査方法と設計

WEBモニターに対するアンケート調査。

1次調査（スクリーニング）は2018年12月19日～2019年1月5日に実施。2次調査の対象とする40～59歳の民間企業に勤務する正社員（ただし、勤務先の業種については農業、林業、漁業、公的機関、宗教を除き、本人の職種については専門的職業のうち医師、歯科医師、看護師、助産師、弁護士、公認会計士、税理士を除く）を抽出した。

2次調査（本調査）は2019年1月11日～28日に実施。男女それぞれ4,000名程度、5歳刻みの年齢区分ごとに1,000名を回収目標として割り付けた。なお、役職構成の男女差を縮小するため、男性については年齢計で管理職比率の上限を4割程度に設定した。

3 回答者の属性

有効回答数は女性4,121名、男性4,181名となった。

年齢別構成は図表I-1のとおり。5歳刻みの4区分でみて、男性は各年齢区分ほぼ均等に1,000名程度回収できたが、女性については55～59歳区分が734名（17.8%）と若干少なくなったため、50～54歳及び45～49歳区分の回収を増やしている。

図表 I - 1 回答者の年齢別構成（5歳刻み）

（単位：上段は人数、下段は%）

	調査数	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳
全体	8302 100.0	2061 24.8	2224 26.8	2239 27.0	1778 21.4
女性	4121 100.0	1013 24.6	1184 28.7	1190 28.9	734 17.8
男性	4181 100.0	1048 25.1	1040 24.9	1049 25.1	1044 25.0

勤務先業種の状況は図表 I - 2 のとおり。男女別にみて構成比の差が大きいのは、製造業（男性が 14.3 ポイント高い）、卸売・小売業（女性が 6.1 ポイント高い）などである。

図表 I - 2 勤務先の業種

(単位：左段は人数、右段は%)

調査数	全体		女性		男性	
	人数	%	人数	%	人数	%
調査数	8302	100.0	4121	100.0	4181	100.0
鉱業、採石業、砂利採取業	30	0.4	15	0.4	15	0.4
建設業	731	8.8	466	11.3	265	6.3
製造業	2642	31.8	1015	24.6	1627	38.9
電気・ガス・熱供給・水道業	127	1.5	35	0.8	92	2.2
情報通信業	822	9.9	293	7.1	529	12.7
運輸業、郵便業	522	6.3	206	5.0	316	7.6
卸売・小売業	1126	13.6	685	16.6	441	10.5
金融・保険業	641	7.7	390	9.5	251	6.0
不動産業、物品賃貸業	265	3.2	157	3.8	108	2.6
学術研究、専門・技術サービス業	170	2.0	100	2.4	70	1.7
宿泊業、飲食サービス業	164	2.0	91	2.2	73	1.7
生活関連サービス、娯楽業	191	2.3	128	3.1	63	1.5
教育・学習支援業	65	0.8	28	0.7	37	0.9
医療、福祉	253	3.0	209	5.1	44	1.1
複合サービス	41	0.5	22	0.5	19	0.5
他に分類されないサービス業	512	6.2	281	6.8	231	5.5

勤務先規模（正社員数）別の状況は図表 I - 3 のとおり。男女差が大きく、男性は 1,001 人以上の大企業に勤務する割合が高く、女性は 50 人以下の小規模企業に勤務する割合が高い。

図表 I - 3 勤務先の従業員規模

(単位：上段は人数、下段は%)

	調査数	従業員規模					
		50人以下	51～100人	101～300人	301～1,000人	1,001人以上	わからない
全体	8302	1998	815	1146	1145	2951	247
	100.0	24.1	9.8	13.8	13.8	35.5	3.0
女性	4121	1347	465	578	482	1077	172
	100.0	32.7	11.3	14.0	11.7	26.1	4.2
男性	4181	651	350	568	663	1874	75
	100.0	15.6	8.4	13.6	15.9	44.8	1.8

従事している職務の状況は図表 I-4 のとおり。女性は約 6 割 (60.6%) が「事務的な仕事」であり、男性は「専門的・技術的な仕事」(26.8%) と「管理的な仕事」(24.8%) の割合が高い。

図表 I-4 従事している職務

(単位：上段は人数、下段は%)

	調査数	管理的な仕事	専門的・技術的な仕事	事務的な仕事	販売の仕事	サービスの仕事	保安の仕事	生産工程の仕事	輸送・機械運転の仕事	建設・採掘の仕事	運搬・清掃・包装等の仕事	その他の仕事
全体	8302 100.0	1274 15.3	1666 20.1	3053 36.8	785 9.5	287 3.5	46 0.6	425 5.1	147 1.8	57 0.7	64 0.8	498 6.0
女性	4121 100.0	237 5.8	544 13.2	2499 60.6	323 7.8	157 3.8	5 0.1	99 2.4	15 0.4	5 0.1	21 0.5	216 5.2
男性	4181 100.0	1037 24.8	1122 26.8	554 13.3	462 11.0	130 3.1	41 1.0	326 7.8	132 3.2	52 1.2	43 1.0	282 6.7

現在の役職の状況は図表 I-5 のとおり。女性は「役職なし」が約 7 割 (69.2%) を占めるが、男性では課長以上の役職に就く割合が 4 割超 (43.7%) となっており、男女間で役職比率の差が大きい。

図表 I-5 現在の役職

(単位：上段は人数、下段は%)

	調査数	役職なし(係員、一般社員など)	係長相当職(係長、主任、リーダーなど)	課長相当職(課長、部門責任者などの管理職)	部長相当職	部長相当職より上(本部長、執行役員など)	その他
全体	8302 100.0	4192 50.5	1850 22.3	1567 18.9	584 7.0	107 1.3	2 0.0
女性	4121 100.0	2850 69.2	839 20.4	307 7.4	96 2.3	28 0.7	1 0.0
男性	4181 100.0	1342 32.1	1011 24.2	1260 30.1	488 11.7	79 1.9	1 0.0

最終学歴の状況は図表 I - 6 のとおり。男性では大学・大学院卒が合わせて約 3 分の 2 (65.7%)、女性では、大学・大学院卒が約 3 割 (31.5%) となっており、同世代の学歴構成と比較して高めになっている。

図表 I - 6 最終学歴

(単位：上段は人数、下段は%)

	調査数	大学院	大学	短大 高専	専修学校 (専門課程)	高校	中学校	その他
全体	8302 100.0	477 5.7	3568 43.0	1173 14.1	712 8.6	2303 27.7	68 0.8	1 0.0
女性	4121 100.0	91 2.2	1208 29.3	1007 24.4	404 9.8	1383 33.6	27 0.7	1 0.0
男性	4181 100.0	386 9.2	2360 56.4	166 4.0	308 7.4	920 22.0	41 1.0	- -

職業経験年数の状況は図表 I - 7 のとおり。これまでに働いていた通算期間は、男女とも最も多い区分が「30 年以上」であり、職業経験が長い人が多い。現在の勤務先での勤務年数は、女性では最も多い区分が「10～15 年未満」(18.6%)、男性では「30 年以上」(18.8%) であり、10 年以上勤務している人の割合が女性では約 3 分の 2 (64.5%)、男性では約 4 分の 3 (76.6%) と、長期勤続者の割合が高い。

図表 I - 7 これまでに働いていた通算年数と現勤務先での勤務年数

(単位：上段は人数、下段は%)

	調査数	3 年未満	3～5 年 未満	5～10 年 未満	10～15 年未満	15～20 年未満	20～25 年未満	25～30 年未満	30 年以上	わからない
これまでに働いていた通算期間										
全体	8302 100.0	73 0.9	48 0.6	121 1.5	254 3.1	984 11.9	1982 23.9	2021 24.3	2617 31.5	202 2.4
女性	4121 100.0	29 0.7	28 0.7	75 1.8	171 4.1	513 12.4	1034 25.1	1036 25.1	1112 27.0	123 3.0
男性	4181 100.0	44 1.1	20 0.5	46 1.1	83 2.0	471 11.3	948 22.7	985 23.6	1505 36.0	79 1.9
現在の勤務先での勤務年数										
全体	8302 100.0	855 10.3	516 6.2	1069 12.9	1308 15.8	1192 14.4	1128 13.6	1098 13.2	1136 13.7	- -
女性	4121 100.0	501 12.2	304 7.4	658 16.0	765 18.6	583 14.1	506 12.3	453 11.0	351 8.5	- -
男性	4181 100.0	354 8.5	212 5.1	411 9.8	543 13.0	609 14.6	622 14.9	645 15.4	785 18.8	- -

配偶関係と子どもの状況は図表 I - 8 のとおり。男性では4分の3（75.1%）に現在配偶者がいるが、女性では4割（40.1%）と配偶者がいない人のほうが多く、男女差が大きい。子どもがいる割合は女性42.7%、男性65.1%である。

図表 I - 8 配偶関係と子どもの状況

(単位：上段は人数、下段は%)

	調査数	配偶者の有無		子どもの有無と人数			
		いる	いない	1人	2人	3人以上	いない
全体	8302	4792	3510	1394	2370	716	3822
	100.0	57.7	42.3	16.8	28.5	8.6	46.0
女性	4121	1654	2467	640	854	264	2363
	100.0	40.1	59.9	15.5	20.7	6.4	57.3
男性	4181	3138	1043	754	1516	452	1459
	100.0	75.1	24.9	18.0	36.3	10.8	34.9

4 本報告の構成

以上のように、本調査の回答者の基本属性をみると、勤務先企業規模、従事する職務、役職、最終学歴、家族構成等に男女間で差が大きい。また、男女とも就業者全体と比較して最終学歴が高めとなっている。本調査は無作為抽出ではなく、以下の調査結果報告はウェイトバックなどデータの補正を行っていないので、結果を解釈する上で、このようなサンプルの特性に留意が必要である。また、男女間の属性の差が大きく、単純に男女間の比較をすることも適切ではないため、本報告では原則として男女それぞれの結果を紹介し、これまで調査研究のデータが少ない女性中高年社員の状況を中心に分析する。

以下の本報告書の構成は次のとおりである。Ⅱでは、現在の勤務先の高齢期雇用の状況と回答者自身の高齢期に向けた勤務継続の意向や展望についてみる。Ⅲでは、回答者の仕事満足度や勤務先の人事制度に対する評価、キャリア設計の状況についてみる。Ⅳでは、現勤務先に限らず、高齢期の働き方や生活への展望についてみる。Ⅴでは、定着意識別にみた女性正社員の特徴的な傾向について、より詳細な分析を行う。最後にⅥで全体のまとめとインプレッションを述べる。